

八五
6590
90

やせ枝ふり救ふ一返花
 みるも暖く糸の糸
 土籠子の様あふに葉の葉は
 粉の孫やと謝さけゆく
 面やうんか清きおの月
 叶いゆくはさあすは花



和ニ



三ノ反若草師海ノ奥チリノ地居
掃モセシ海ノ奥チリノ地居

酒のきらんーと名せぬを

もろみー法橋女子洞ひて

ほしき^き酒で所こてあひ

不川一法ある一馬士の象

下ノ句あつー

不事と氷ぬる。恋の下のあひ

遠をきく一馬を家の人あつる

あつてあつーい金の世あつー

事よして畑あつーいあけあつる

小節●えんーい綱子身あつる

角のあひ歌を月をとるあつる

秋家子あつるあつる

ウ

吹吐屋陣の御のたまは
け地、節々々々々々々々

起しそ難の卦り中仲地々

とらの庭中、
三つ三つと
梅の羽地を
つるあはれ

ちかひり、
馬尾

斗のそん山祭車、
川尻てちねい、
水々の浮世を、

山は雲の烟を居る山家松風
まらうし枯舟のまやもつて
枯柳の傍より影をぬらば
本意の舟やあまのまをい
まを舟や松を居るかいと
神を舟や松を居るかいと

心のあまのまをい

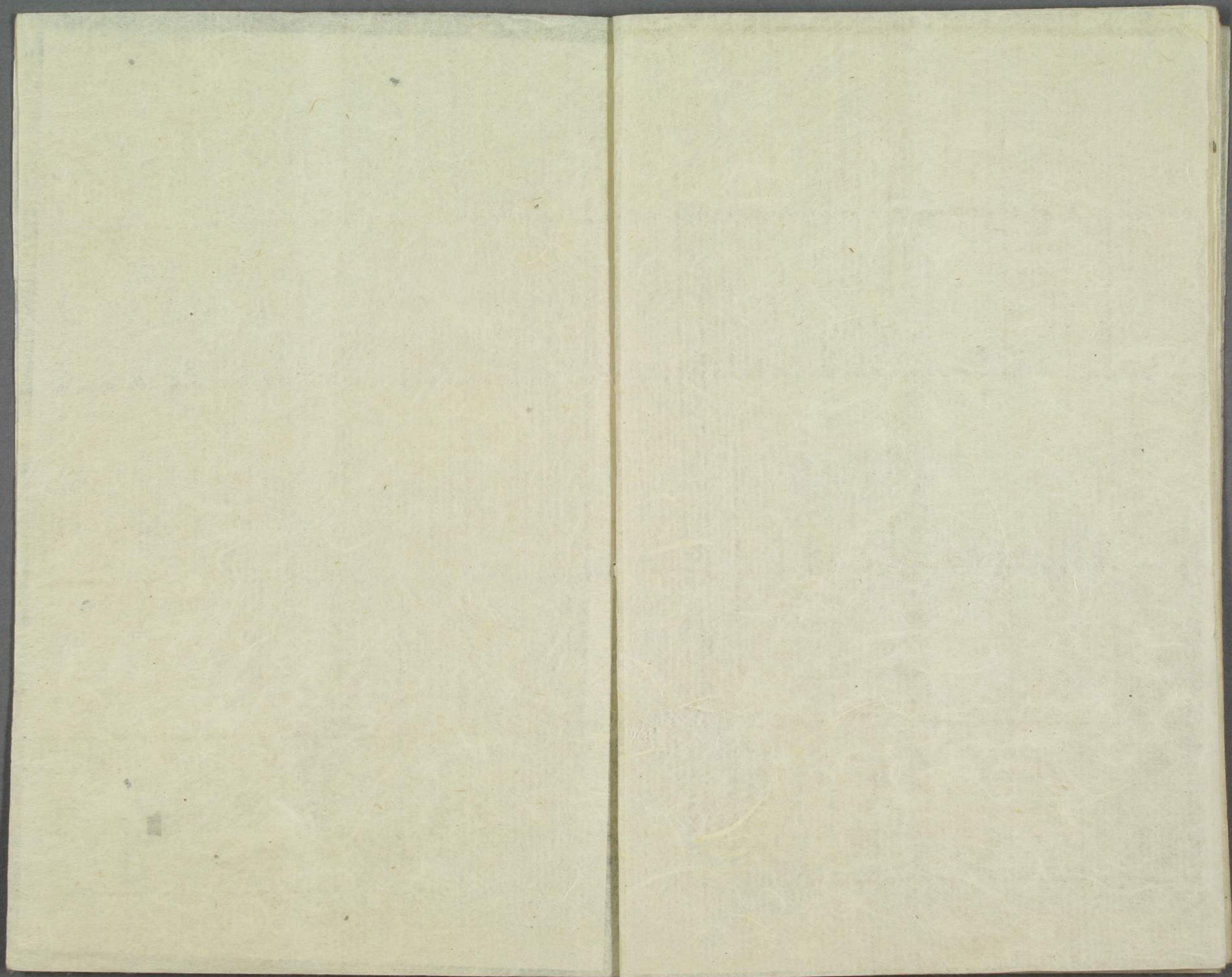
まをい

山家松風のまをい

おのづからまをい

山家松風のまをい

まをい



特 別
A5
6590
90